

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームゆうしゅん
(ユニット名)	1F
所在地 (県・市町村名)	長崎県佐世保市東浜町846-3
記入者名 (管理者)	安永 悦子
記入日	平成 19 年 9 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして何が大切かを職員全体で協議し、現在の理念の見直しを行っている段階。	○	現在検討中。地域密着型を理念に含めた理念の見直しを実施したい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全体会議の席で、理念を理解し、かつ認識しながらケアに結びつけていくように意識付けを行っている。又、職員採用時には理念の説明を行っている。	○	理念について話し合い、考える機会を更に設け、職員一人一人が理念の内容を十分に理解し、日々のケアへ反映できるようにしていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族へは家族会やホーム便りを活用し、地域の方へは運営推進会議において説明を行い、事業所の取り組みを理解していただけるように努めている。	○	新理念決定後は、再度家族会や運営推進会議、ホーム便り等で理念を伝え、事業所としての姿勢を示し、更なるご理解やご協力を頂けるよう努力したい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の店へ買物へ出かける機会もあり、顔馴染みとなり声をかけて頂いている。また、窓越しに気軽に声かけをして下さったり、庭の果物を摘み、差し入れをして下さる方もある。	○	グループホームとして、ご近所とどのような関わりができるかを全職員で検討し、地元の方々と良好な関係づくりを目指していきたい。ホーム便り等を回覧板で回して頂き、ホームの存在を知らせる。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域活動の情報を集め、地域の行事には積極的に参加するように努めている。(公民館清掃・市民大清掃・婦人部主催料理教室など)	○	今後も町内行事等へは積極的に参加し、交流を深め、ホームに対するご理解やご協力が得られるよう努力していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護職としての経験を活かし、認知症サポーターとして貢献できるよう研修等への参加を予定している。	○	今後は、介護教室や実習生の受け入れができるような体制を整えていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義・目的を全職員へ伝え、全員で自己評価に取り組んでいる。また、評価結果は、全体会で報告し改善すべき課題については検討し、改善に向け努力している。	○	改善策については、改善計画を作成し、具体的に検討・課題改善に向け取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の席でサービス評価の意義・目的を説明し、評価結果も報告している。また、改善すべき課題等については、ご家族からの要望等も聞き全体会で検討している。	○	今後も施設運営に関するご意見や要望・助言等を頂ながら、質の確保と向上を図っていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営に関する事柄については、随時、市の窓口へと足を運び、相談を行っている程度である。	○	運営推進会議担当者と連携し、助言・アドバイスを受けながら、よりよい施設運営を図っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要なケースについては、管理者及びケアマネが主として対応しており、全職員の理解度は低い。	○	全職員が施設職員としての知識を深める為にも勉強会等を利用して学ぶ機会を設けていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より利用者の尊厳を大切に支援を行っているが、管理者は日々の生活の中で利用者様とスタッフの関係性を見極め、状況の把握に努めている。	○	全職員が施設職員としての知識を深める為にも勉強会等を利用して学ぶ機会を設けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時においては、重要事項についての説明を行い、事業所の方針や取り組み等についてご理解して頂き、同意を得るようにしている。契約内容の改訂時にも説明を行い同意を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で、利用者様との対話の時間をもち、意見や思いを伺っている。また、聞き取りが困難な方については、言葉や態度から思いを汲み取り、利用者様の声としてスタッフ間で伝達・共有している。又、スタッフ会議の席で対応策を検討し、前向きに取り組んでいる。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会・来訪時には極力面談の時間を設け、現況報告を行っている。緊急時は電話連絡を行っている。又、月1回のホーム便りで生活状況をお伝えしている。金銭管理の出納台帳は月1回、ご家族へ発送、また、来訪時にも台帳を開示し、確認印を頂いている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時には極力お声かけし、面談の時間を設け要望やご意見等々をお尋ねしている。出された意見・苦情については、ミーティング・スタッフ会議で話し合い、対処している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者と職員の面談は実施済みであるが、管理者と職員の個人面談の経緯はない。毎月のスタッフ会議や全体会において、お互いの意見交換を行う場は設けられ話し合いもされている。	○ 管理者による職員の面談を実施し、職員個々の意見や思い・要望等を聞く機会を設け運営や支援によりよく反映させていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	極力、利用者にしわ寄せのいかない人員配置を心掛けている。状況に応じ対応ができるように管理者の夜勤を減らしたり、行事時は増員した勤務体制に配慮している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニットの職員を固定化し、利用者・ご家族との信頼関係が築けるよう配慮している。新スタッフ採用時には、事前にオリエンテーションを実施し、利用者様とも顔合わせしていただくなど配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤・非常勤に関わらず、他事業所での学習会や県内外の研修等にも進んで参加できるよう声かけを行っている。参加者については、全体会(勉強会)の席にて報告し全職員が共有している。	○	研修参加を希望する職員が固定化しており、全スタッフが自己研鑽に努める上においても研修の参加を促進していきたい。スキルアップの意味でも平等にチャンス確保したい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会へ入会し、意見交換や情報等が得られるようにしている。定期的開催されているグループホームブロック会議には、職員がローテーションで毎回出席し、他事業所との交流を図るよう努めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員相互の関係を深める意味でも定期的な研修旅行等を計画・実施している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員会議を通じ、毎月の目標・行事を定めて取り組むようにしている。	○	職員は日々の生活の流れに甘んじることなく、仕事や提案を自ら積極的に見出すよう働きかけていきたい。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	契約前に家庭訪問を行ったり、場合によってはホームへ繰り返し足を運んでいただき、納得・安心して利用していただけるように配慮している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	契約前の面接の段階より、ご家族の思いをしっかりと聴き、受け止め、今後の対応のあり方等について親身に相談に応じよう心掛け、その後も随時面談を行い、心配事や要望等々についてお聞きしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス 利用も含めた対応に努めている	相談を受けた場合は早急に本人やご家族と面談を行い、状 況を確認し対策を検討している。急を要する相談について は、必要に応じ他事業所と連絡をとり、他事業所のサービス につなげるなど支援を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	利用前に施設の見学をして頂き、建物や職員・他入居者と顔 合わせして頂く事により、環境の変化によるダメージを最小 限に食い止めるよう配慮している。また、入居後暫くは、ご家 族へご協力いただきながら、ご本人が安心出来る環境を 提供しつつ、徐々に施設生活に馴染んでいただけるようご支 援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	全職員が利用者は“人生の先輩である”という認識の下、職 員と利用者は対等の関係であることを念頭において日々の ケアに努めている。時には、相談相手になっていただく事も ある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている	来訪時には極力面談を行い、日々の暮らしの出来事をご家 族へお伝えし、情報交換の場を設けるなど共有化に努めて いる。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	本人・家族の各々の想いを確認しつつ、両者がよりよい関係 を保持出来るよう、微力ながらご支援させて頂いている。 知人・友人の面会もあり、継続的な交流が出来ているが、ご 本人は、ご家族を第一と考えられており、ご家族が関わって 頂けるような場面づくりなど行っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	馴染みの美容室や商店の方々のサービス提供を受けたり、 知人・友人の方々に気兼ねなく訪問して頂くように声かけを 行うなど配慮している。ご家族の協力を得ながら、故郷訪問 や友人との交流支援を実施している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合え るよう努めている	入居者間の性格的な問題もあり、トラブル発生に至る事も 多々見受けられるが、利用者様が孤立されることがないよ うに、職員が仲介し、コミュニケーションを図り、関係が円滑に いくよう、常に気配りを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	在宅復帰後も、電話及び職員による家庭訪問・お見舞い等を行い、状況確認に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で本人の意向や思いを表出して頂けるよう、対話や声かけに努めている。又、月1回のスタッフ会議で情報交換を行い、共有し、よりよい方向性を見出すように努めている。意思疎通困難な方については、言葉や表情等から把握している。また、ご家族へも伝達し、情報を得るようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に、ご家族より生活歴や生い立ちなどについて情報収集し、また、その後の生活支援、本人との会話の中から情報を得ている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活習慣や個々の想いを職員全員が理解し、ニーズに応じた支援に努めている。又、状況に応じ、ミニカンファレンスの場において情報交換等を行い、支援に反映させている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の要望や意向を確認し、本人主体の計画を立て、援助を行うように努めているが、本人の意思確認が十分でない場合は、家族の意向を伺い、計画の中へ反映させている。また、スタッフ会議を設け、情報の収集を行い、アセスメントからモニタリングに至るプロセスを踏みながら作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回のスタッフ会議において、モニタリングを実施、状態の変化や気付き等が生じた場合は、スタッフ全員で検討を行い、現状に即したプラン提供・支援に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録と個別援助の記録を分け、身体状況や日々の暮らしの様子・エピソード等を本人の言葉で詳細に記録し、状態の変化や現状の様子が把握できるよう、また、その後のケアへ活かせるように記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本年度より医療連携を実施。日常の状態観察や緊急時等にも対応が出来るような体制を確保している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の警察署や消防署からの訪問もあり、協力支援の依頼を行っている。また、民生委員や自治会長様方と交流する機会を設けている。	○	地域の方々と接点を持てるよう、今後も民生委員や自治会長様方へ協力を依頼していく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他事業所、外部ケアマネジャーや専門職との連携がいつでもとれるよう、日頃より関わりを持っている。必要に応じて、外部サービスの利用検討も実施している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の開催により、情報交換や助言・協力が得られるようになっている。	○	運営推進会議をきっかけに関係作りを強化し、今後の運営に反映させていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望される病院・医師の医療が継続して受けられるよう支援している。また、状況に応じては通院介助を行ったり、主治医及び協力医の訪問診療を受ける事もある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いについては、本人のプライドを傷つけることが無いように、常に意識付けを行い徹底させている。	○ 尊厳について学ぶ機会を設け、対人サービスに携わる者としての認識を深めていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々に合わせた声かけ・対応を行い、耳を傾けるようにしている。何事も一つ一つ、本人へ確認を行い、同意の上対応しており、起床時には、本人に衣服を選択して頂くなど働きかけを行っている。	○ 個々に合ったレクリエーションの提供や利用者の思いなどを聞き取ることができるような、ゆとりの時間を確保していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、本人主体・本人のペースで生活していただいている。自室で一日をのんびり過ごす事を居心地良いと思われている方もあり、決して無理強いする事がないよう、スタッフ全員が認識している。食事や睡眠についても本人のペースで対応している。	○ スタッフ数の確保や職員の意識づけを行い、本人がやりたい事がやれる環境づくり、個別性のある支援を目指していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理・美容については個人・家族の希望を取り入れ、行きつけの店へ出かけられている。また、1回/2ヶ月の割合での訪問美容を受けられている。着衣自立者の重ね着については、状況に応じて声かけ援助を実施し、お化粧品希望者には準備支援を行うなど対応している。	○ 年齢を重ねられても、いつまでもその人らしさを保持して頂けるよう、その人らしい身だしなみ支援を行っていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望メニューを取り入れたり、味見をお願いしたり、配茶など各々が出来る分野で活躍していただいている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在は喫煙者なし。飲酒については、行事の際に甘酒を提供する機会あり。飲み物・オヤツについては、好みも考慮し提供している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	各人の排泄パターンを把握し、時間毎や随時の声かけ・誘導を実施している。又、要介助者で、尿意あられる方については、行動をキャッチし、失敗のない支援を心掛けている。	○	パット使用者については、価格・吸収性・交換の頻度等を引き続き考慮し、検討・対応を行っていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日設定、順番交代制にて対応中。拒否時には強制せず、順番を入れ替えたり、翌日に声かけし対応するなど配慮している。入浴日以外は、足浴を実施している。	○	現行週2回、入浴実施中。今後は季節に応じ、又、年間を通して入浴の回数を増やす方向で検討していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の安眠が得られるよう、日中活動的に過ごして頂くよう支援している。入床時間は個人の希望により対応、また、夜間の覚醒時にはテレビ視聴やスタッフと対話されるなど、思い思いに過ごされている。	○	昼夜逆転、安眠確保への対応として、生活リズムを整える支援に努めていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力を発揮して頂けるよう、お茶入れや洗濯物たたみ、掃除機かけなど、得意分野・望まれる作業等をお願いしており、都度感謝の気持ちを伝えるよう努めている。	○	入居者間で批判や嫉みを受けられることなく、各々が思い思いに自己の残存能力が発揮出来るような環境・雰囲気づくりを目指していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定額を預かり金として施設管理しているが、中には本人の希望もあり、ご家族が小遣い程度の金銭を渡されている方もあり、近隣の店まで買物へ出かける楽しみを持たれている。	○	自己管理分の金銭の把握を行い、本人の混乱・紛失時の対応策を今一度、ご家族・本人を交えて話し合っていく、ベストな状態を保ちたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩、近隣店への買物付き添いは随時実施しているが、個々の希望に添える外出支援は十分に出来ない。	○	個々の希望に添える外出支援が出来るよう、スタッフ数の確保や対応策について全スタッフで協議し、実施に向け取り組んでいきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食、花見、遠足などについては、定期的に計画実施している。遠出の外出、故郷訪問、墓参り等については、ご家族の協力支援がある。	○	家族を交えた外出支援(温泉・旅行など)を検討していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時はスタッフが電話を入れ、ご家族と本人で対話していただく。利用者の中には、携帯電話を所持され、いつでも自由に使用され楽しまれている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居間にソファを設け、ゆっくりとくつろいで頂ける様に配慮。又、本人の部屋へ案内し、気兼ねなく歓談して頂いている。来訪者への積極的な挨拶、会話などに努め、親しみやすい雰囲気づくりに全職員が心掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないケアを前提に実践しているが、ご家族の強い要望により1事例に限りベッドセンサーの設置が行われている。	○	職員については拘束をしない介護のあり方を追求してもらい、ご家族については、拘束をしない介護に理解が得られるよう働きかけていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠しないケアを前提に実践し、日中、玄関は開放、いつでも自由に行き来ができる状況であるが、裏口(非常口)のみ十分な見守りが困難な為、施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	訪室時はノック・声かけを行い、了解を求め入室するように努めている。夜間帯は頻回に訪室・巡回を実施し安否確認を行っている。又、スタッフは居間に待機し、物音等に対しても素早く対応できる姿勢である。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤類は鍵付きの倉庫へ保管。刃物(包丁)は夜間のみ、消毒を兼ねて目の届かない開閉困難な乾燥機へ保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	歩行時の遠監視や付き添い等、個人に合わせた支援を実施している。提出されたヒヤリハットに対しては、スタッフ間で対策を検討し再発防止に努めている。	○	全体会でリスクマネジメントについて学習する時間を設け、各ユニットで個々のケースについて検討し、事故防止に取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全体会(勉強会)の中で、応急処置や利用者の状況に応じて想定される事故を職員で検討し、対処の仕方など学習する機会を設けているが、定期的な実施はできていない。	○	いかなる場合においても職員一人ひとりが万全な対応が可能となるよう、定期的に学習実践する機会を設けていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難・通報・消火訓練等を実施している。	○	地区の避難場所の確認や支援体制の整備＝町内の青年部への協力依頼等を働きかけていきたい。また、職員については、定期的な訓練を実施し、非難誘導の仕方など身につけていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時に随時現況についての説明や報告をおこなっている。リスクについても事前にご報告し、家族の意向を確認しながら対応している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定及び身体・表情等々の観察を十分に行い、前兆を見逃さないように努めている。発熱時、不具合時はDrへ報告、指示を仰いでいる。又、状況に応じ訪問看護への相談を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方線を掲示、処方変更時や副作用等については、伝達ノートで伝達し、職員一人ひとりが内容を把握できるようにしている。	○	施設内勉強会で、応急手当の方法については学習済みであるが、薬の内容(目的・用法・用量・副作用など)について知識を得たいとの職員要望がある為、今後の勉強会に導入していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、排便の有無確認を行っているが、確実な確認が困難な方もある。便秘予防として食材の工夫や水分補給の促進、適度な運動等を働きかけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけ・見守り、また、介助を要す方については、義歯洗浄や就寝前の口腔ない確認など個々に応じた支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や食事形態については、個々に合わせて提供し、状況によっては代替食にて対応するなど、援用確保や水分補給に努めている。水分補給については、本人希望の飲み物を準備したり、夜間用として自室に常備し、自らも水分摂取に留意されている方もある。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗いの励行、毎日の台所用品の消毒など衛生管理に心がけている。県・市からの情報にも全職員が目を通し、感染予防の徹底を図っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、布巾・まな板のハイター消毒を実施。又、包丁・まな板は消毒後に乾燥機による温熱消毒を実施し、衛生管理に努めている。食材についても、冷蔵庫のチェック、賞味期限の確認を毎日行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関入り口にベンチ3台を設置し、誰でも自由に使用し、おしゃべりやくつろげるスペースを確保している。また、玄関前や入り口に畑や花壇を設け、明るい雰囲気づくりに努めているが、猫の糞害で悪戦苦闘の状況である。	○	早急に、猫対策を行い、明るい環境づくりを強化していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の居間には季節の生花を飾り、また、毎月季節に応じた装飾等を行い、四季を感じて頂けるよう配慮している。不快音については、台所用品の取り扱いやスタッフ間の大声による私語など慎むよう注意している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やテラスにベンチを設置、また、居間にソファ、廊下には椅子を置き、外の景色を眺めたり、おしゃべりしたりと思いいいに過ごしていただけるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物品(家具類)や写真、本人が好まれていた小物など、気軽に持ち込んで頂き、安心してくつろいで頂けるような環境づくりに配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気の良い日は窓を開け、換気を行い、トイレや居室には消臭剤を使用、常に臭いの無い、さわやかな環境づくりを心掛けている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり等の設置や環境づくりについては、必要に応じ都度対応が出来ている。又、トイレを部分的にウォシュレット付きの便座に取替えを行った。	○	車椅子対応型の洗面台を増やすなど、利用者の状況に応じた環境設定を行っていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入り口には顔写真、トイレ入り口にはリボンなど、目印となるものを取り付けている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関、テラスにベンチを設置しており、外気浴やおしゃべりをされるなど気分転換の場所として利用されている。また、運動を兼ね、ホームの周りを散歩されている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 社会的にも虐待が問題視されている中、当ホームにおいては暴力による虐待は勿論、言葉による暴力も全くありません。入居者一人ひとりが幸せに過ごせますようにという理念を掲げ、職員一人ひとりが考えご支援しています。
- 入居者の皆様が安全で、安心して過ごして頂けるよう職員一人ひとりが目配り・心配りを行っています。
- 食事に関しては、素材の良いものを使用するように心掛けています。